

# 育てたのは自信とシイタケ



炭焼きにしたシイタケの出来上がり待つメ  
ンバーら。高島市マキノ町西浜の藤美寮で

原木シイタケづくりで昨年から取り組んでいる高島市内の障害者マキノ町西浜の知的障害者支援施設「藤美寮」で初の収穫作業を行った。(多園尚樹)

## 高島でうれしい初収穫

長さ一尺ほどのほだ木二百七十本からは、十一十五本程度のシイタケがよきよき。傘の直径が十五センチを超え、大きなものもあり、参加者はうれしそうにもぎ取っていた。シイタケは、その場で炭焼きや炊き込みご飯などに調

理し、みんなで採りたての味を楽しんだ。障害者に就労や地域貢献の場を提供しようと、高島県事務所が実施している「湖西なごみの森づくり実践事業」に施設利用者らが、昨年十一月に施設の裏山でコナラを伐採し、外部から購入した分と合わせてほだ木を用意。今年二月に菌を植え付け、月一回ほどのペースで手入れを続けていた。

同所保健福祉課の山口朝生副主幹は「これまでしたことのないような作業を通じて彼らも自信をつけたよう。最初のころより生き生きした表情だ」と話した。

# 企業に技術力アピール

## 障害者就労

県や県社会就労事業振興センターによる初の開催。障害者施設に仕事を発注した企業に対する優遇税制「発注促進税制」が今年四月から導入されたのを受け、事業所と企業を結び付ける場を設けた。

ヨシ名刺印刷、HP作成、清掃…



ビジネス提案する障害者就労支援事業所の職員ら。④=大津市の大津プリンスホテルで

## 大津で就労支援事業所

を提出できるか提案した。八身福祉会と東近江市林田町の八身共同印刷

障害者の働く就労支援事業所が企業にビジネスを持ち掛ける「ビジネス・アビリティ・プレゼンテーション」が十二日、大津市におの浜の大津プリンスホテルであった。(曾布川剛)

は、封筒や広報誌の印刷技術を生かし、琵琶湖のヨシを使った名刺作りをPR。職員の道田衛さん(五巴)は「不景気で発注が減っているのが現状。これを機に取引先が増えれば、施設利用者の給料にも還元できる」と張り切っていた。